

令和 5 年 5 月 12 日現在

機関番号：25406

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2018～2022

課題番号：18K10436

研究課題名(和文) 多様な小児看護の場で働く看護師への倫理的看護実践強化プログラムの構築

研究課題名(英文) Development of educational programs to promote ethical nursing practices among pediatric nurses with varied nursing experience

研究代表者

松森 直美 (Matsumori, Naomi)

県立広島大学・保健福祉学部(三原キャンパス)・教授

研究者番号：20336845

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：2000年から開発してきた「小児看護ケアモデル」は、子どもと家族への基本的な倫理的看護実践を簡潔な表現にまとめたものである。2012年からはこれを活用した看護師に対する教育プログラムを開発し効果を検証してきた。2017～2022年は、増加し続けている混合病棟や地域の診療所等の多様な場で小児看護を実践している看護師に本プログラムを実施し、倫理的看護実践の改善効果を明らかにした。特にコロナ禍の2021～2022年はミニ講義を含めた小児看護ケアモデルを活用したオンライン・プログラムを開発し実施した。参加者数は17名で概ね肯定的な変化が確認できた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

コロナ禍において看護職者のニーズに対応したオンライン・システムを活用した実効性のある小児看護の倫理的看護実践を普及・強化するための教育プログラムの方法を開発し、小児看護初心者や他科経験者を対象に実施した場合の実行可能性が示唆された。次世代を担う子ども施策を総合的に推進することを目的として設立されたこども基本法およびこども家庭庁に象徴されるように、切れ目なく行われるこどもの健やかな成長に対する支援の1つとして、医療の場における子どもの最善の利益を追求した倫理的看護実践の普及は、将来の日本を支える子どもの健やかな成長に欠かせない取り組みとなると考える。

研究成果の概要(英文)：This study aimed to clarify the feasibility of improving practices in daily ethical nursing through workshops using the Paediatric Nursing Care Model (PNCM) to obtain feedback. The online workshops were held across two weeks for 17 nurses who applied voluntarily in 2021 and 2022. The implementation percentage of PNCM items at the end of the second workshop increased compared with the percentage at the beginning of the first workshop. The increase in the implementation percentage of PNCM items suggests that reinforcement of daily ethical nursing practices is feasible for paediatric nurses working in diverse medical settings. Comments from the participants suggested that the best strategy for online workshops is to provide participants with polite directions and follow-up online regarding the readiness of the various skills learned by the participants.

研究分野：小児看護学

キーワード：小児看護ケアモデル 倫理的看護実践 小児看護現任教育 卒後教育 混合病棟 オンライン

1. 研究開始当初の背景

1) 小児看護における倫理的看護実践の経緯

1970年代から欧米で医療を受ける子どもへの心理的な侵襲を軽減するためのプレパレーション(子どもへの説明、心理的準備)が看護分野に導入された。1980年代以降、WHOによる病院における子どもの看護の勧告(1982)、病院の子ども憲章(1988)等が制定され、子どもの権利を守りながら医療や看護を行うことがより強く考えられるようになった。1990年代後半からプレパレーション等による子どもと親の尊厳を守る看護実践が活発に行われ始め、1999年日本看護協会は小児看護の業務基準の中で子どもと養育者へのわかりやすい説明の必要性を提唱した。2009年看護師国家試験出題基準の改訂において子どもの人権に配慮した病院環境の整備、プレパレーション、インフォームド・アセントに関する内容が示され、小児病棟での看護師の倫理的な看護実践の意識は着実に向上している。「子どもの知る権利の尊重」を意図した看護師の子どもへの説明は、2000年には5割以下であったが、2005年には7割、2010年には9割以上と増加した¹⁾²⁾。

2) 小児看護における倫理的看護実践の課題

医学中央雑誌WEB(1983-2017)で「小児看護」「プレパレーション」「倫理」をキーワードとして文献検索を行った結果、プレパレーションに関する調査や報告数は2006年以降増え始め、年間100件前後報告されている。一方、倫理に関する文献数は年間20~30件であり、プレパレーションに関する文献数を下回っている。

高橋らは、小児看護の経験年数別では0~5年、年齢別では26~30歳の看護師が子どもの権利侵害場面への対処が看護師間での話し合いに留まり、倫理的な看護実践に至っていないと指摘している³⁾。また、少子化の影響により小児と成人診療科の混合病棟化は1994年以降から急速に増加し、混合病棟における看護師の認識と実践の向上も課題となっている。「プレパレーションを知っている」看護師は小児病棟75%、混合病棟45%、プレパレーションの実施は小児病棟73.3%、混合病棟23.2%であり、混合病棟では認識、実施とも低かった⁴⁾⁵⁾。したがって、小児看護経験の少ない看護師や混合病棟における小児や家族への関わり方に不慣れな看護師による倫理的な看護実践の差など小児看護の専門性の不均衡が生じている。しかし、小児看護特有の新人看護研修や混合病棟等の小児看護初心者、他科経験者に対して体系化された研修プログラムはない。

2. 研究の目的

1) 小児看護における倫理的看護実践を強化する教育プログラムを多様な場で小児看護を実践している看護師に実施し、その効果を明らかにする。

2) 小児看護における倫理的看護実践の認識と研修に関する調査により、本プログラムの応用可能性と課題を明確化する。

3. 研究の方法

1) 小児看護ケアモデル(以下、PNCM)を活用した教育プログラムを小児看護に携わる看護師を対象に公開講座等で実施し、PNCM24項目について講義初回の実施頻度と講義終了時の実行可能性のポイントを比較し効果を分析した。初回の講座冒頭にPNCM実施頻度Aを回答後、医療処置の基本的な小児看護に関するミニレクチャー(約30分)を受講し、実践例Bの記入およびPNCM実行可能性Cを記入した。2カ月後にA、Bの用紙を対象者に郵送し再度記入と返送を求めた。A~Cは介入且つデータとし、4段階リッカートスケール(A:いつもしている~していない、C:いつもできそう~できそうにない)各4~1点を集計後、中央値を比較し、記述回答は質的分析を行った。

2) 国内の小児診療科を有する病院、診療所等に勤務する看護師を対象に小児に対する日常的な倫理的看護実践やプレパレーションの現状、小児看護に関する臨床研修の現状およびニードについてWEB調査を実施した。

4. 研究成果

1) 講座開催の成果

2018年は対面で実施したが、2020年はコロナ禍のため開催を中止し、2021~2022年はオンラインで開催した。

(1) 対面による講座の成果

小児医療に携わる看護師14名を対象とし、2カ月後の回答があった9名、初回のみ参加の5名のデータをそれぞれ分析した。前者9名の看護師経験は平均14.1年(SD=9.3)、小児看護経験は平均7.1年(SD=5.5)、所属は7施設(混合病棟と外来各3名、小児科病棟2名、診療所1名)、他科経験者8名、看護倫理の学修経験者8名、プレパレーションの学修経験者7名、受講動機は「関わりを学びたい」、「日頃の実践の見直しや振り返り」、「小児看護の院内研修がない」等事前にある程度の小児看護の知識と学修動機があった。講座前AからCへは10項目の中

中央値が増加した。2カ月後のAは6項目が増加し、このうち「③（親がいても親とは別に）子どもの目の高さで、検査・処置の目的・内容を子どもに説明している」、「⑩検査・処置から他へ向く様に子どもの気をそらしている」、「⑭子どもの検査・処置後の反応を確認している」の3項目はCを上回る増加が見られ効果の継続が確認できた。

後者5名の看護師経験は平均15.2年（SD=7.1）、小児看護経験は平均1.2年（SD=0.9）、所属は2施設の小児科病棟で受講動機は「異動となり小児看護の経験が浅いため関わりを学びたい」等だった。全員が他科経験と看護倫理の学修経験はあったがプレパレーションの学修経験者は1名のみだった。講座前AからCへは12項目の中央値が増加したが「⑤親が付き添うか否か希望にそう」は減少し、「⑬子どもが泣いても押えつげずに、他の方法で対処している」は前者9名と比べあまり増加していなかった。実践例では家族が付き添う病室での処置場面を4名が記述していた。実行可能性は確認できたが、2カ月後の回答の返信がないため実施頻度の改善は確認できなかった。今後も同様の実行可能性の高いプログラムを開講し、広く小児看護に関する継続学修の機会を提供していく需要あることが示唆された。

(2) オンライン講座の成果

初回90分、2週間後に2回目90分のオンライン講座を開催した。オンラインフォームへの入力と送信により、初回の冒頭に実施頻度A、2週間の間に実践例B、2回目講座後の実行可能性Cに関する回答を得た。混合病棟および診療所の看護師等の17名の参加者（小児看護経験6年以下6名、7年以上10名、不明1名）についてAとCのポイントを比較し、5項目に有意差（ $p < 0.05$ ）を認め、実行可能性を確認することができた。

さらに、記述回答の質的分析から得たカテゴリー間の関連性を下図のように図式化し、講座参加者の認識の構造を示した。以上より、参加者の至便性からオンライン講座として開催を継続する方向性を見出した。

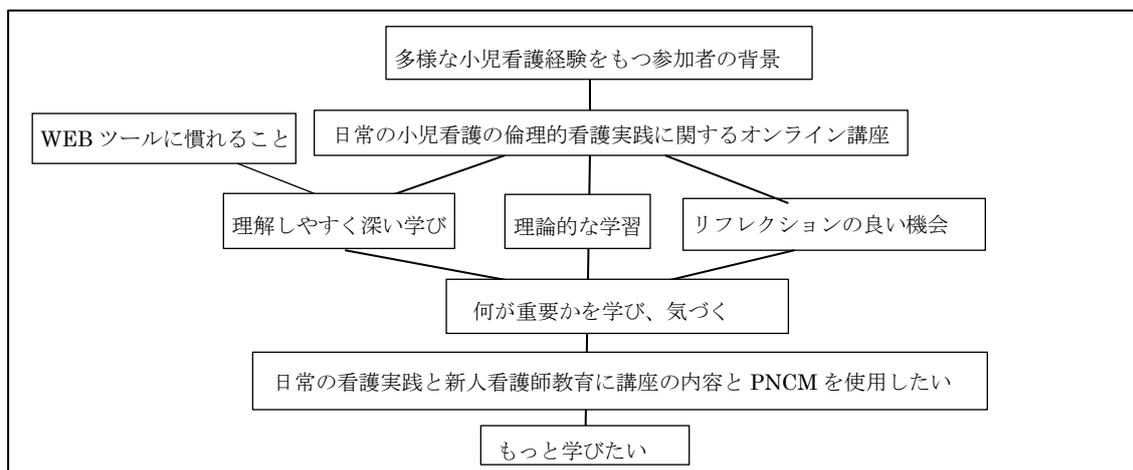


図1. オンライン講座参加者の認識の構造

2) 小児看護の倫理的看護実践の認識と研修の要望に関するWEB調査

243件（回収率12.1%）のデータを分析した。回答者の内訳は一般病院77.3%、診療所16.4%、小児専門病院・障害児施設等6.3%であった。子どもへの心理的準備の必要性について「常に必要」64.5%、「状況に応じて必要」35.5%であり、必要でないとの回答はなかった。セミナーや研修会の参加形態の要望は「対面」31.5%、「オンライン」53.8%、「オンデマンド」69.5%であり、オンライン形式での参加を要望する回答が多かった。記述回答においても「学習機会が少ない」、「動画で繰り返し学修したい」、「定期的な学修の機会を提供してほしい」などの記述がみられ、需要の高さが示された。そのため、今後さらに要望に応えられるよう内容や方法を洗練し、継続して講座を開催していきたいと考える。

<引用文献>

- 1) 松森直美(2012)検査・処置を受ける子どもへの説明と納得に関するケアモデル:作成の経緯, 小児看護ケアモデル実践集—看護師が行う子ども目線のプレパレーション, へるす出版, 46-47
- 2) 大西文字, 杉浦太一, 羽根由乃(2002)看護師が行う小児へのインフォームド・コンセントの現状—全国400床以上の病院と小児専門病院へのアンケート調査結果から—. 日本看護学会誌, 11(1), 60-69.
- 3) 高橋衣, 濱中喜代(2014)看護師の倫理教育受講経験と子どもの権利擁護実践の現状, ヘルスサイエンス研究, 18(1), 21-31
- 4) 米山 雅子, 野中 淳子, 長田 泉他(2008)B県内における子どもの入院環境に関する実態調査—小児病棟管理者へのアンケート調査から—. 神奈川県立保健福祉大学誌, 5(1), 83-93.
- 5) 本間 昭子, 加国 正子, 大久保 明子他(2009)A県内の小児看護実践状況に関する調査(その2)プレパレーションと新任・現任教育について. 日本看護学会論文集小児看護39号, 74-76.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計7件（うち査読付論文 7件/うち国際共著 3件/うちオープンアクセス 6件）

1. 著者名 Matsumori Naomi	4. 巻 12
2. 論文標題 Changes in Nurses after Online Workshops Using the Pediatric Nursing Care Model	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Open Journal of Nursing	6. 最初と最後の頁 234 ~ 243
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.4236/ojn.2022.123015	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Matsumori Naomi	4. 巻 9(2)
2. 論文標題 Development of educational programs to promote ethical nursing practices in pediatric nursing in Japan	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 African Journal of Medical Case Reports	6. 最初と最後の頁 1-3
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Matsumori Naomi	4. 巻 11
2. 論文標題 Studying the Reinforcement Effect of a Seminar on Ethical Practices among Pediatric Nurses	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Open Journal of Nursing	6. 最初と最後の頁 152 ~ 163
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.4236/ojn.2021.113014	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Matsumori Naomi	4. 巻 11
2. 論文標題 Studying the Reinforcement Effect of a Seminar on Ethical Practices among Pediatric Nurses	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Open Journal of Nursing	6. 最初と最後の頁 152 ~ 163
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.4236/ojn.2021.113014	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1. 著者名 Matsumori Naomi	4. 巻 10
2. 論文標題 An Ethical Practice Intervention Program for Pediatric Nurses with Varied Nursing Experience	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Open Journal of Nursing	6. 最初と最後の頁 411 ~ 428
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.4236/ojn.2020.104028	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Matsumori Naomi	4. 巻 10
2. 論文標題 An Ethical Practice Intervention Program for Pediatric Nurses with Varied Nursing Experience	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Open Journal of Nursing	6. 最初と最後の頁 411-428
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.4236/ojn.2020.104028	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Matsumori Naomi	4. 巻 -
2. 論文標題 Effects of an Intervention Program for Promoting Ethical Practices Among Pediatric Nurses	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Comprehensive Child and Adolescent Nursing	6. 最初と最後の頁 1 ~ 19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/24694193.2018.1470704	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計6件(うち招待講演 0件/うち国際学会 3件)

1. 発表者名 Nomi Matsumori
2. 発表標題 Nurse's changes after the online workshops using the pediatric nursing care model
3. 学会等名 56th World Congress on Nursing and Health Care (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Naomi Matsumori
2. 発表標題 Nurse's impressions and changes after the workshops using the pediatric nursing care model
3. 学会等名 World Nursing Care Congress (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 松森直美
2. 発表標題 医療処置を受ける小児と家族への倫理的看護実践強化プログラムの効果
3. 学会等名 日本小児看護学会第29回学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Naomi Matsumori
2. 発表標題 Effects of an Intervention Program for Promoting Ethical Practices Among Pediatric Nurses
3. 学会等名 International nursing symposium at Mayo Clinic (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 松森直美
2. 発表標題 小児医療に携わる看護師の倫理的な看護実践を強化する介入プログラムの効果
3. 学会等名 日本看護倫理学会第11回年次大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 松森直美
2. 発表標題 医療処置を受ける小児への倫理的看護実践を強化する介入プログラム受講者の他科経験の有無による効果の違い
3. 学会等名 第38回日本看護科学学会学術集会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 今野美紀、二宮啓子	4. 発行年 2022年
2. 出版社 南江堂	5. 総ページ数 480
3. 書名 小児看護学II 小児看護支援論（改訂第4版）	

〔産業財産権〕

〔その他〕

https://pncn-matsumori.jp/ 研究者紹介(日本語版) https://www.pu-hiroshima.ac.jp/uploaded/attachment/13990.pdf 研究者紹介(英語版) https://www.pu-hiroshima.ac.jp/uploaded/attachment/13995.pdf
--

6. 研究組織			
	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------